

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
孤立しないさせない生活推進事業			地域福祉課及び高齢者関係機関会議				
事業目的	事業内容	活動指標	H31	R2	R3		
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくために、見守りネットワークを構築し、相互に支え合える地域づくりをめざす。	(1)相談窓口等の案内・啓発のための印刷物やグッズを作成し配布する。 (2)地域での見守り支援ネットワーク構築のために研修・会議等を開催する。	配布数	南区版 高齢者相談案内マップの改訂	靴反射シール作成・配布 (高齢者の交通安全・行方不明等の早期発見のため)	靴反射シール作成・配布 (高齢者の交通安全・行方不明等の早期発見のため)		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	南区は堺市内でも高齢化率が高く、集合住宅も多いため、地域のつながりが希薄になりがちである。そのため、南区として高齢者の見守りネットワーク啓発を行うことについて妥当性がある。	◎	民生委員をはじめ関係機関、民間事業所と連携して取り組んでいる。	○	啓発チラシやグッズの配布によって相談案内や、資源活用のきっかけとなっている。区内で暮らす高齢者の見守り、相談機関からの支援につながっている。	○	地域で暮らす人たちの協力により、高齢者とコミュニケーションができ、孤立防止に効果がみられた。
⑤自立発展性		総合評価					
△	地域で暮らす高齢者を孤立させないために、行政が深くかかわる必要がある。	○	啓発チラシやグッズを作成し、資源活用のための情報元として活用することで区内で暮らす高齢者の見守り、相談機関の支援につなげることができた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 ◎継続 見直し 廃止	高齢者が増加するなか、今後も行政と関係機関が連携して実施していく必要がある。 啓発チラシやグッズは配布先を増やすとともに、状況の変化に合わせて内容の見直しを行う必要がある。						